

## 第2回北九州市食育推進懇話会 議事要旨

議題1 確認事項 ア)第1回懇話会議事要旨、イ)本市の食を取り巻く背景

- ・「食に感謝する」は、どのように、具体的に伝えていくか。
- ・「ふれあい昼食交流会」については、地域の集会所等でも実施していただきたい。
- ・高齢者は食材を購入すること自体が大変である。地域によっては坂が多かったり、バスの利便性が悪かったり、インターネットは使えない場合も多い。
- ・市民センターでの調理については、食中毒予防など衛生面に注意して実施するため、すべての方に身近に感じてほしいが調理数が限られており、難しい。
- ・消費者団体連絡会では、親子料理教室を開催している。子供に人気の学校給食メニューを調理することで調理員をはじめ、食に携わる方々の苦労と「命をいただく」ことを含めて学習活動を行っている。また、食材のこと、調理の工夫、食品ロス(使い切り)などの内容も検討している。
- ・サプリメントが出回っているが、食事を食べるということが一番ではないか。食事を自分で作る習慣がない、時間がなくてできないということがあるので、時間を確保して時間にゆとりを持つことが必要。
- ・特に高齢者については、サプリメントは医薬品との組み合わせ注意が必要。
- ・農家は後継者不足が問題。農家で質のよいものを出しても、安い方が売れる現状がある。
- ・農協でも減塩の取組(適塩料理を毎月1回講習)、小学生親子を対象に地元の旬の野菜を使った料理教室を開催したりなどの取組を実施している。
- ・学生と一緒に料理教室を開催して、若い人にSNS等を活用して発信してもらうのも大事。
- ・現在の子ども食堂はどのようになっているか。よく噛んで食べるということを子どもたちに伝えることが大事。

議題2 次期北九州市食育推進計画体系(案)について

- ・口腔機能の低下と野菜摂取不足の関係について、野菜の摂取の減少が口腔機能の低下につながることを盛り込んだ方が分かりやすいと思う。
- ・口腔機能の低下が一番よくみられるのは高齢者。
- ・口の健康度を上げることが、食事をおいしく食べられるし、いろいろなものを噛んで食べる、丸のみせずに噛んで食べるというところは、一番の入り口であると思う。
- ・「食に感謝する」について、命をいただいているという感謝について伝える必要がある。非常の時に備え、食べられる山菜や野草について知ることも感謝につながる。
- ・保育所等で栽培体験を行ったり飼育体験を行ったりすることで、食への感謝を育んでいきたい。

議題3 次期北九州市食育推進計画の指標(案)について

- ・野菜1日350gの中に野菜ジュースや青汁、サプリメントは含まれるのか。
- ・健康づくり応援店について、認証マークなどあるのか。
- ・野菜350gについて、視覚的にとらえて、どのくらいであるとか、生と調理後のカサの変化などを周知していかなければいけない。